

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成21年11月12日 (2009.11.12)

【公表番号】特表2009-509508(P2009-509508A)

【公表日】平成21年3月12日 (2009.3.12)

【年通号数】公開・登録公報2009-010

【出願番号】特願2008-532490(P2008-532490)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 31/22 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

G 0 1 N 33/566 (2006.01)

G 0 1 N 33/15 (2006.01)

G 0 1 N 33/50 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 0 7 K 16/18 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 31/22

A 6 1 P 9/10 1 0 3

A 6 1 P 9/00

G 0 1 N 33/53 M

G 0 1 N 33/566

G 0 1 N 33/53 D

G 0 1 N 33/15 Z

G 0 1 N 33/50 Z

C 1 2 Q 1/68 A

C 0 7 K 14/47

C 0 7 K 16/18

A 6 1 K 45/00

【手続補正書】

【提出日】平成21年9月25日 (2009.9.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

急性冠状動脈事象を発症する変更された危険性を有する個体を同定するのを支援する方法、またはスタチン処置に応答する個体の可能性を評価するのを支援する方法であって、該方法が、

該個体の核酸のサンプルにおける S N P の対立遺伝子の存在または非存在を検出する工程

を包含し、ここで該SNPは、配列番号263の101位によって示され、そして該対立遺伝子の存在または非存在は、急性冠状動脈事象を発症する個体の危険性またはスタチン処置に応答する可能性に相関する、方法。

【請求項2】

前記個体の核酸と検出試薬とを接触させる工程、およびどのヌクレオチドが、特定されたSNP位置に存在するかまたは存在しないかを決定する工程を包含する、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記核酸は、前記個体の血液細胞から調製される、請求項2に記載の方法。

【請求項4】

前記検出試薬は、ポリヌクレオチドプローブである、請求項2に記載の方法。

【請求項5】

前記プローブの3'末端は、前記核酸におけるSNPにハイブリダイズする、請求項4に記載の方法。

【請求項6】

前記プローブは、レポーター色素によって標識される、請求項4に記載の方法。

【請求項7】

核酸分子における配列番号263の101位によって示される一塩基多型(SNP)を検出する方法であって、

試験サンプルと、ストリンジェントなハイブリダイゼーション条件下で配列番号263のヌクレオチド配列におけるSNPに特異的にハイブリダイズする試薬とを接触させる工程、ならびに

ハイブリダイズした二重鎖の形成を検出する工程を包含する、方法。

【請求項8】

前記検出は、対立遺伝子特異的プローブハイブリダイゼーション、対立遺伝子特異的プライマー伸長、対立遺伝子特異的増幅、配列決定、5'ヌクレアーゼ消化、分子ビーコンアッセイ、オリゴヌクレオチドライゲーションアッセイ、サイズ分析、および一本鎖立体配座多型からなる群より選択される工程によって行なわれる、請求項7に記載の方法。

【請求項9】

急性冠状動脈事象を発症する変更された危険性を有する個体を同定するのを支援する方法、またはスタチン処置に応答する個体の可能性を評価するのを支援する方法であって、該方法が、

該個体の核酸のサンプルにおける多型の存在または非存在を検出する工程を包含し、該多型は、配列番号263のヌクレオチド配列における101位によって示されるSNPとの連鎖不均衡に存在し、そして該多型の存在または非存在は、急性冠状動脈事象を発症する個体の危険性またはスタチン処置に応答する可能性に相関する、方法。

【請求項10】

個体において心臓血管障害を処置する方法であって、該方法が、

配列番号263の101位によって示されるSNPの存在または非存在によって予測されるようなスタチン処置に応答する該個体の可能性に基づいて有効な量のスタチンを含む

、方法。

【請求項11】

SNP含有核酸分子によってコードされる改変タンパク質を検出するための試薬であって、該試薬は、別の核酸分子によってコードされるタンパク質と比較して、該改変タンパク質に選択的に結合し、ここで該SNP含有核酸分子は、配列番号263の配列番号101によって示されるSNPを含む、試薬。

【請求項12】

前記試薬は、抗体、抗体フラグメント、アプタマー、ペプチド、リガンドまたは低分子化

合物である、請求項 1 1 に記載の試薬。

【請求項 1 3】

前記試薬は、レポーター色素または造影剤によって標識される、請求項 1 2 に記載の試薬。

【請求項 1 4】

請求項 1 1 に記載の試薬および緩衝液を備える、キット。

【請求項 1 5】

増幅されたポリヌクレオチドであって、該増幅されたポリヌクレオチドが、配列番号 2 6 3 またはその相補体の 1 0 1 位によって示される一塩基多型 (SNP) を含み、ここで、該増幅されたポリヌクレオチドが、約 1 6 ヌクレオチドと約 1, 0 0 0 ヌクレオチドとの間の長さである、増幅されたポリヌクレオチド。

【請求項 1 6】

前記ヌクレオチド配列は、配列番号 2 6 3 のヌクレオチド配列を含む、請求項 1 5 に記載の増幅されたポリヌクレオチド。

【請求項 1 7】

配列番号 2 6 3 のヌクレオチド配列における 1 0 1 位によって示される一塩基多型 (SNP) を含む核酸分子に特異的にハイブリダイズする、単離されたポリヌクレオチド。

【請求項 1 8】

8 ヌクレオチド ~ 7 0 ヌクレオチドの長さである、請求項 1 7 に記載のポリヌクレオチド。

【請求項 1 9】

対立遺伝子特異的プローブである、請求項 1 7 に記載のポリヌクレオチド。

【請求項 2 0】

対立遺伝子特異的プライマーである、請求項 1 7 に記載のポリヌクレオチド。

【請求項 2 1】

核酸における一塩基多型 (SNP) を検出するためのキットであって、請求項 1 7 に記載のポリヌクレオチド、緩衝液、および酵素を備える、キット。

【請求項 2 2】

配列番号 2 6 3 からなるアミノ酸配列を含む、単離されたポリペプチド。

【請求項 2 3】

前記ポリペプチドは、配列番号 2 6 3 からなるアミノ酸配列を有する、請求項 2 2 に記載の単離されたポリペプチド。

【請求項 2 4】

請求項 2 2 に記載のポリペプチドに選択的に結合する、抗体。

【請求項 2 5】

心筋梗塞を治療的もしくは予防的に処置するのに有用な薬剤を同定するための方法であって、該方法が、候補薬剤に請求項 2 4 に記載のポリペプチドを、該ポリペプチドと該候補薬剤との間に結合複合体を形成させるために適切な条件下で接触させる工程、ならびに該結合複合体の形成を検出する工程を包含し、ここで、該複合体の存在が、該薬剤を同定する、方法。